

共催セミナー 18

慢性腰痛症の診断と治療  
～慢性の痛みをいかに評価し、治療するか?～

日時

10月27日(水)

WEB配信  
18:50～20:00

座長

五味 潤 聡志 先生

五味潤整形外科医院 院長

演者

鈴木 秀典 先生

山口大学大学院医学系研究科 整形外科学 講師

ご視聴方法

第34回HPからオンライン学術総会特設ページへリンクします。

開催の詳細は学術総会の  
特設ページをご覧ください

ページURL <https://shinsen-mc.co.jp/jcoa34/>



単位

認定単位:日整会専門医単位(N)1単位 または 脊椎脊髄病医単位(SS)1単位  
必須分野:[7]脊椎・脊髄疾患 または [13]リハビリテーション(理学療法、義肢装具を含む)

## Abstract

# 慢性腰痛症の診断と治療

## ～慢性の痛みをいかに評価し、治療するか?～

山口大学大学院医学系研究科 整形外科学 講師

鈴木 秀典

脊椎疾患の診療において、「運動麻痺」と「疼痛」は早期に治療介入が必要となる重要な症候である。痛みに対しては、手術以外にも多くの治療介入が行われている。特に慢性痛に対する薬物治療、ブロック療法、集学的治療の実際について慢性疼痛ガイドライン／腰痛診療ガイドラインとともに自験例をあげながら紹介する。さらには、慢性痛の代表的疾患である腰痛症を中心に、「山口県腰痛 study」のデータを示しながら腰痛症診断の重要性について述べ、それに引き続く、診断に基づいた治療法選択について報告する。

はじめに、当科における外科治療の適応と固定術や除圧術などの治療成績について示す。また外科治療以外の手法として、椎間関節性腰痛に対する CMAP モニタリング下後枝内側枝電気焼灼術の実際や、神経根症に対する高周波熱凝固法、Racz カテーテルを用いた硬膜外腔癒着剝離神経形成術などの試みなどについても紹介する。

次に、様々な社会環境により複雑な要因が絡み合った難治性腰下肢痛患者に対する山口大学ペインセンターでの集学的治療の実際について報告する。難治といわれる腰痛患者においても、診断とそれに基づく治療方針の決定は重要であり、病態に応じた運動療法や認知行動療法による治療介入の現状、治療コンセプトについても報告する。

最後に、慢性腰下肢痛患者に対する集学的治療の有効性を患者立脚型多面的評価に基づいたデータで示すとともに、痛みセンターで得られたデータから、新たな治療効果判定基準としての cutoff 値や Minimal clinically important differences (MCID) などを紹介する。